

〔神名秘書〕垂仁天皇纏向珠城宮御宇卽位○中廿二年癸丑遷飯野高宮、四箇年奉齋于時造進
倭姫命向飯野下シタヒ橋際、乃乙若子命以麻神芻靈等進倭姫命、

〔經信卿記〕承暦元年七月二日戊戌巳刻出壹志驛○中伊勢祇承官人稱例自下見橋退出午刻至櫛

田川

〔江家次第十二〕公卿勅使進發并路次儀

十二日

供給沐浴祓就路、伊勢祇承於下見橋退去、渡シテ鶴田川、太神宮多氣川祓儀物司下桶小川或云停鈴聲シテ領興國也

〔詠大神宮二所神祇百首和歌雜〕橋

音ニ聞下桶小川ノ橋朽テ引渡シケン御代ノ遙ケサ

〔伊勢紀行〕うへ川の橋と申所にて、

旅人のかけさへみゆるわたりかな春行水の上川のはし

〔名所方角抄伊勢〕宮川 山田の入口なり、世俗にはやうだとも云り、中宮川にて參詣の人は、祓をする也、此川に舟橋をかけたり、

〔大神宮諸雜事記〕天平寶字二年九月、御祭使祭主清麻呂卿參宮之間度會川之浮橋船亂解天忌部隨身之上馬一疋自船放流斃亡已畢爰上下向之間者路次國司差祇承迎送調備供給進大夫馬令修造道橋等之例也、於神郡者偏宮司之勤也、而件浮橋之勤依不有如在勅使隨身之馬者所斃損也、此尤宮司忍人不忠之所致也者、宮司爲方遁陳且進怠狀且辨返替馬已畢自爾以後勅使參宮之間時宮司以騎用馬以四疋奉貸也、即立爲恒例也、

〔元長參詣記〕筑紫日向國宮崎郡幸西西喜ト云人有○中伊勢太神宮爾參南旅立里乃夜をこめて、